

🔄 展開例

**目的** 対話型鑑賞やいろんな方向から作品を見る活動を通して、鑑賞の楽しさを味わう。

**鑑賞教材を使った活動**

- ・美術館で作品を見る時のマナー・ルールを知る。
- ・上尾忠生作「初秋」で対話型鑑賞を体験する。
- ・机上に平らに置いた上尾忠生作「瀑布」を四方向から見て、見えたことや感じたことを伝え合う。
- ・作者の描いた向きやテーマを伝えて、そこから新たに気付いたことや考えが深まったことなどについて共有し合う。

🔄 四方方向から見たワークシート

①「うかんでいる青クジラのかげ」  
クジラから水がふいているように見えました。

青が赤色でかみどくはくジラに見えてクジラが水の上をうかんでいるように見えました。青色でかみどくはくジラに見えてクジラの水がうかんでいるように見えました。

うかんでいるように見えて、クジラの水がうかんでいるように見えました。

この絵に描かれているのは「うかんでいる青クジラのかげ」の絵です。そのわけは、青くジラの水がうかんでいるように見えたからです。

また、クジラがうかんでいるように見えて、うかんでいるように見えました。

③「だれかのかけからにげるおたまじゃくし」  
おたまじゃくしのようにながれているみたい。

水がだれかのかけからにげるおたまじゃくし。ここに「おたまじゃくし」がいます。おたまじゃくしのようにながれているようにみえます。

おたまじゃくしのようにながれているようにみえます。おたまじゃくしのようにながれているようにみえます。

おたまじゃくしのようにながれているようにみえます。おたまじゃくしのようにながれているようにみえます。

この絵に描かれているのは「だれかのかけからにげるおたまじゃくし」の絵です。そのわけは、おたまじゃくしのようにながれているようにみえたからです。

②「ぬののめいろ」  
ぬののように見えたものがトンネルのようなものをあけてたりしている。

ぬののように見えたものがトンネルのようなものをあけてたりしている。ぬののように見えたものがトンネルのようなものをあけてたりしている。

ぬののように見えたものがトンネルのようなものをあけてたりしている。ぬののように見えたものがトンネルのようなものをあけてたりしている。

この絵に描かれているのは「ぬののめいろ」の絵です。そのわけは、ぬののように見えたものがトンネルのようなものをあけてたりしているからです。

④「たくさん世界」  
川からたきで下に水をながして、また川がはじまった感じ。

川からたきで下に水をながして、また川がはじまった感じ。川からたきで下に水をながして、また川がはじまった感じ。

川からたきで下に水をながして、また川がはじまった感じ。川からたきで下に水をながして、また川がはじまった感じ。

この絵に描かれているのは「たくさん世界」の絵です。そのわけは、川からたきで下に水をながして、また川がはじまった感じだからです。

🔄 今回の取り組みについて

美術館に行ったことがない子供たちにも、楽しく鑑賞することを伝えたいと取り組みました。上尾忠生作「瀑布」は、柔らかな色調の抽象的な作品で、どのような見方もできる作品です。神戸の子供たちになじみ深い「布引の滝」を題材にしています。3年生の子供たちが興味をもって鑑賞できるように、教室の中央に図版を置いてどの方向からも鑑賞できるように場を設定しました。どの方向から見ていても、「ウォータースライダー」「海の中」といった水に関係するワードや、「車のレース」「アスレチック」のような動きに関係するワード、「無限のすべり台」「かいだん」のような「高さ」に関係するワードが出てきて、子供たち一人一人が「高い所から、白い布を垂らしたように直下する水の流れ」など鑑賞を通して感じ取っていることが伝わってきました。第一印象では、①の向きを選ぶ子供が多かったですが、③が作者の描いた向きであることを伝えると、驚きとともに新たな気づきがあったようで、自分たちの見方や感じ方をさらに深めていきました。

第3学年 図工科(鑑賞)指導略案

馬場 典子

単元名(題材・教材)

上尾 忠生 「瀑布」 どっちから見ようかな、何が見えてきたかな。

単元の目標

- ・対話型鑑賞やいろいろな方向から作品を見る活動を通して、鑑賞の楽しさを味わう。
- ・作者の描いた向きやテーマを伝えて、そこから新たに気付いたことや考えが深まったことなどについて共有し合う。

本時の展開

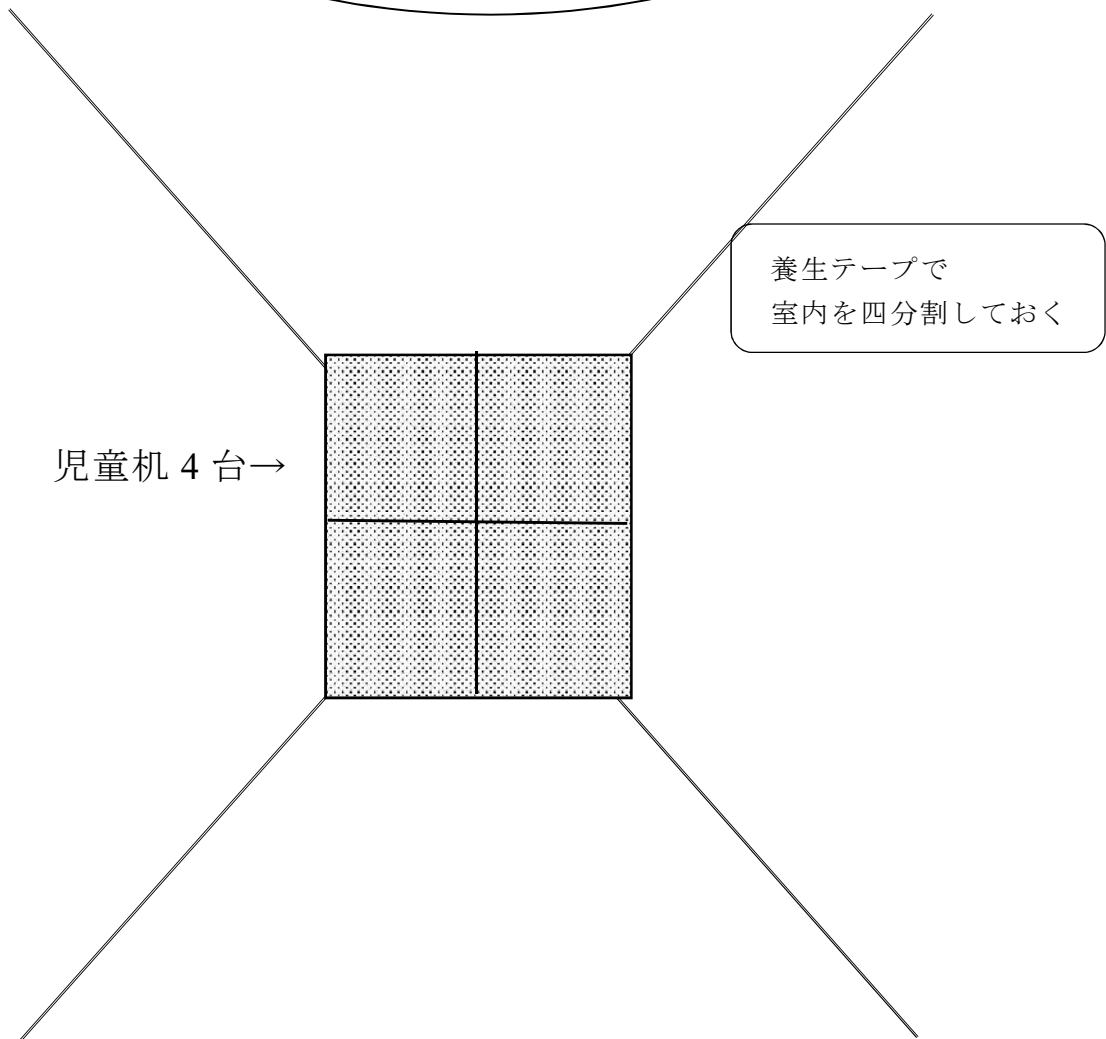
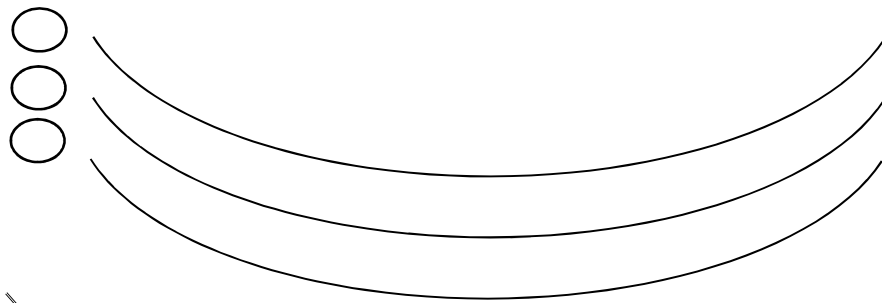
児童の活動と内容	支援、留意点(・)と評価(○)
<p>1. 美術館で作品を見る時のマナー・ルールを知る。</p> <p>2. 「初秋」(上尾忠生)でギャラリートーク体験をする。 「ここは、○○だと思う。それは……だから」 「この色は□□を表したかったからだろう」 「○○が見えるからここは□□な場所だと思う」 等</p> <p>3. 「瀑布」を四方向からみて好みの方向を決める。 ・好みの方向から見てどんなものが見えたか、どんな感じがしたか等をワークシートに書きこんだり、描き足したりする。  ・好みの方向から見た絵の題を考える。 「この線は○○に見える」 「ここは自分なら○○色にしたい」 「□□な感じだから題は『 』にした」 ・互いの思いや感想を伝え合う。</p> <p>4. 学習のまとめをする。 正位置での「瀑布」とテーマとなった布引の滝の写真とをあらためて見比べてみて、作者の思いやテーマと自分たちの考えたことや感じたことについて伝え合う。  絵画の鑑賞を通して、みんなの意見を聞き合い、新たな気づきや考えの深まりがあったことを伝える。</p>	<p>・会話をしてもいいが、会話の内容や声の大きさに気を付ける。</p> <p>・</p> <p>・何を言っても受け入れられる雰囲気を作る。 ・思いを共有できるように「この部分が○○のようにみえる」等、手のひらで絵の部分を指し示して話させる。(鉛筆等で絵を指さない。)</p> <p>○自分の思いを伝えようとしていたか。 ○話し手と聞き手が思いを共有できたか。</p> <p>・自由に発想させるため、題名、何を描いたものか等の情報を伏せて提示する。 ・台上に置いた「瀑布」を好きな方向からみてどんなものが見えたか、思いを自由に書かせる。</p> <p>○なぜこの方向を選んだか、その理由、絵から見えたもの、題等、自分の思いを表せたか。 ・友達の思いを受け止めて反応している児童をみとめ広げる。</p> <p>・布引の滝を描いた抽象画であること、作者は神戸市東灘区在住の今も生きてらっしゃる方であることを知らせる。 ・作者の描いた向きやテーマから、さらに気付いたことや考えが深まったことについて伝え合う。 ・当たった、外れた、と結果だけにとらわれないよう、多様な見方ができ、たくさんの思いを伝え合えたことを認める。</p>

3年生 鑑賞授業をさせていただくにあって…

「今から美術館へ行くよ」と雰囲気を作って多目的室へきていただくとありがたいです。  
正面を向いて3～4列横隊で座らせてください。

持参物…たんけんバッグ、鉛筆1本（折りそうな子は2本）

消しゴムはなし、（なぜなら美術館だから…理由についても授業の中でふれます。）



3年生のみなさんへ

先日は、「東灘美術館」へお越しくださいまして、ありがとうございました。

みなさんといっしょに絵を見ていく中で、たくさんの思いにふれることができました。

その中には、わたしの思いもよらない見え方があったり、「なるほど」と感心するような意見があったりして、とても楽しかったです。友達の見え方に「ほおっ」と納得したり、一人の発言の後にさらにたくさんの方の手が挙がったりと、お互いを高め合っている姿もすばらしかったです。

また、ワークシートの書きこみからも、みなさんのさまざまな見方や豊かな思いが伝わってきて、新鮮な驚きがありました。

29日には小磯記念美術館の峯松香織先生にお越しいただき、活動の様子を見ていただきました。

その折に、「3年生で美術館でのマナーを学習しそれを実践できる子供たちはすばらしいです。明日にでも美術館に来て鑑賞の活動をすることができそうですね。」と、お褒めいただきました。これは、29日に見ていただいた1組のみなさんだけに限らず、3年生のどのクラスにも当てはまるとわたしも思いました。

また、「瀑布」とは、水が勢いよく布のようにかたまりで流れる落ちるさまを表しているといった、わたしの説明にはなかった補足もしていただきました。

時間の関係で先日の学習の中ではふれませんでしたでしたが、美術館には大きく五つの役割があります。

① 美術品を収集する。

何でもというわけではなく、その館のコンセプトに合うものを購入したり寄贈を受けたりして集めます。

② 美術品を保管する。

一番いい温度・湿度・明るさ等を保ちながら保管します。かびやほこりからも作品を守ります。特別な技術を身につけた専門家が傷んだところを修復することも含みます。

③ 美術品を展示する。

美術展を企画し展示します。企画したテーマに合う作品を展示するために、美術館同士協力し合っ  
て、国内外から美術品を貸し借りします。

④ 美術品について研究する。

展示をするためには、その作品や作者について詳しくなければいけません。

作者のかたが亡くなってしまっているものは直接たずねることもできませんから、古い本などで調べます。このことでも美術館同士の連携、情報交換が大切です。

⑤ ①～④を受け継ぐ後継者を育てる。

絵や彫刻を制作する人、それら美術品の良さを見極め広める人、美術館で働く人…等に興味をもってほしいと思っています。そのための専門の教育を受けたいと将来に夢をもつ子供たちを育てることも美術館の役割のひとつです。

神戸市には、そして、東灘区には、大小さまざまな美術館・博物館等があります。そこではすぐれた「本物」に出あうことができます。おうちの方といっしょに、ぜひ足を運んで本物のよさをあじわってみてください。(小学生も参加できるイベントを行っている施設や、のびのびパスポートやココロンカードが使える施設もありますよ。)

そして、これからも美しいものに感動する心、不思議なものを見つけ出せる心を大切に伸ばして行ってほしいと願っています。